

2009/10/13

柏の景気情報（平成21年9月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成21年9月分）

○ 調査期間 : 平成21年9月14日 ~ 9月18日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	75	70.1%
建設	19	16	84.2%
製造	23	16	69.6%
卸・小売	43	29	67.4%
サービス	22	14	63.6%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成21年9月の調査結果のポイント】

《業況DIマイナス幅がわずかに拡大 業種問わず厳しい業況》

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲56.0(前月水準▲53.9)となり、マイナス幅が▲2.1ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲50.0(同▲57.1)である。変わらない業種は、卸小売業▲62.0(同▲62.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲62.5(同▲50.0)、サービス業▲42.8(同▲40.0)である。

【建設業】では、「工事価格を抑えるためか、積算額に差が多い。品質保持のためには、一定水準の予算が必要と思う。すべての業種で価格が下落して、回復は遠いのではないか」(電気工事業)、「例年だと、10～12月は年間で売上が多い月だが、今年は例年のように行かないと予測している」(管工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「当社としてはまだまだ景気低迷の影響は続いている。関係業者からは若干景気が戻りつつあると言うような声も聞こえてきた。ギリギリの状態から幸いなことに最悪な状態を脱出した感もある」(その他の機械・同部分品製造業)、「昇降機基準法が実施され、当社に対応に時間がかかり、まだ準備段階(大手メーカーのみ対応済み)来年3月ごろの予定であり、当分の間新品の販売ができない」(一般産業用機械設備製造業)などの声が上がってきた。

【卸小売業】では、「他社が生鮮部門を縮小したため、当社としては食品部門が多少ですが上昇していますが、結局は同じパイの奪い合いとなっている状況」(その他の各種商品小売業)、「社長貸付なく夏を乗り切ることができた。これは10年ぶりの白星である。但し需要期に向かい、単価上昇もはっきりしているので、やはり前途多難に変わりはない」(燃料小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「9月より、宿泊で、近隣新設SCへの出店企業から長期宿泊を受注。特需となっている」(ホテル)「経費削減(人件費)のため、派遣社員をパートアルバイトに切り替えた」(公衆浴場業)のコメントがあった。

◎売上減少

各業種から、「客数は多くても、売上高、利益が伴わないのが現状です」(管工事業)、「客数は減っていないが、客単価の減少イコール売上の減少が続いている」(その他の各種商品小売業)、「テナントのイベントセールが前倒しになったことや、他のイベントも後ろ倒しに調整したため、月初より売上高は低調な推移となった。特に平日の落ち込みは大きく苦戦」(各種商品小売業)、「宿泊は売上減。稼働率は変わらず」(ホテル)など、特に客数との関係も含めた見方をした声が多く上がっていた。

◎厳しい業況

各業種から、「決算処理が終了した。内容は年々悪化している。現状打開策が必須」(板金・金物工事業)、「得意先である製紙各社が、減産継続または強化を計画しており、大変厳しい状況である」(織物業)、「近隣の大型スーパーに足を延ばす客が多く見られ、その周辺の小売店舗は厳しい状況が続くと思います」(その他の飲食料品小売業)などのコメントがあった。

◎購買意欲低迷

各業種から、「今月は中旬以降青果物全般に単価が下落傾向にあります。野菜は入荷減単価安、果実でも一部前年並みもあるが、入荷減単価安となっています。まだまだ消費減退が続き、価格安でも購買意欲が出ていません」(食料・飲料卸売業)、「秋冬物に商品が変わったが、売れていない。消費者の購買意欲は低く、年ごとに早まるバーゲンが収益をさらに悪くしている」(その他の各種商品小売業)などのコメントがあげられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲ 64.3	▲ 68.7	▲ 66.6	▲ 59.2	▲ 66.6
5月	▲ 59.7	▲ 66.6	▲ 58.8	▲ 58.6	▲ 56.2
6月	▲ 53.9	▲ 53.3	▲ 47.0	▲ 64.5	▲ 38.4
7月	▲ 61.6	▲ 64.7	▲ 62.5	▲ 62.9	▲ 53.8
8月	▲ 53.9	▲ 57.1	▲ 50.0	▲ 62.0	▲ 40.0
9月	▲ 56.0	▲ 50.0	▲ 62.5	▲ 62.0	▲ 42.8
見通し	▲ 41.3	▲ 43.7	▲ 37.5	▲ 41.3	▲ 42.8

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成21年9月の業況についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲56.0(前月水準▲53.9)となり、マイナス幅が▲2.1ポイント拡大した。

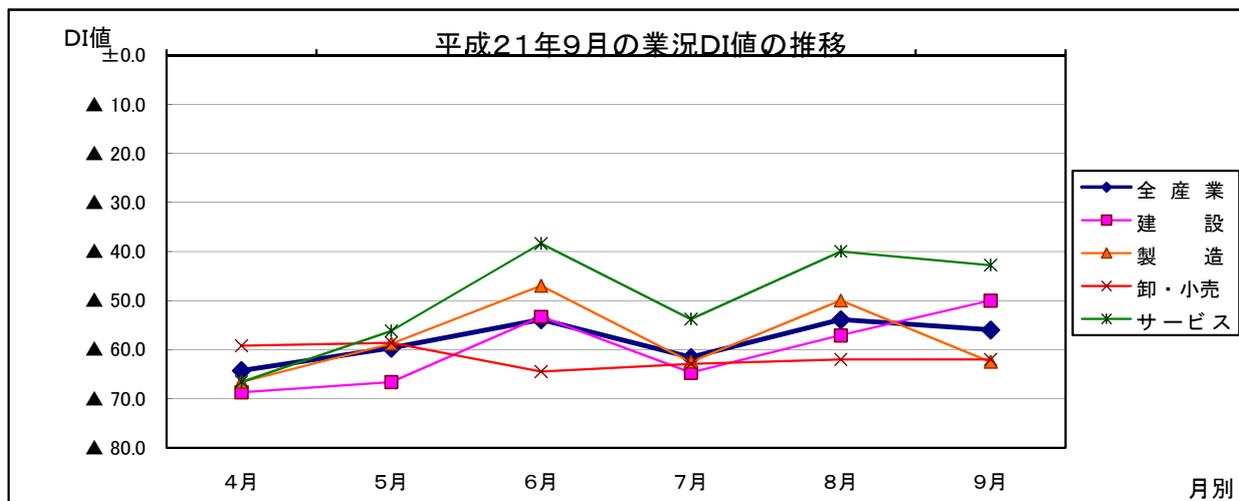
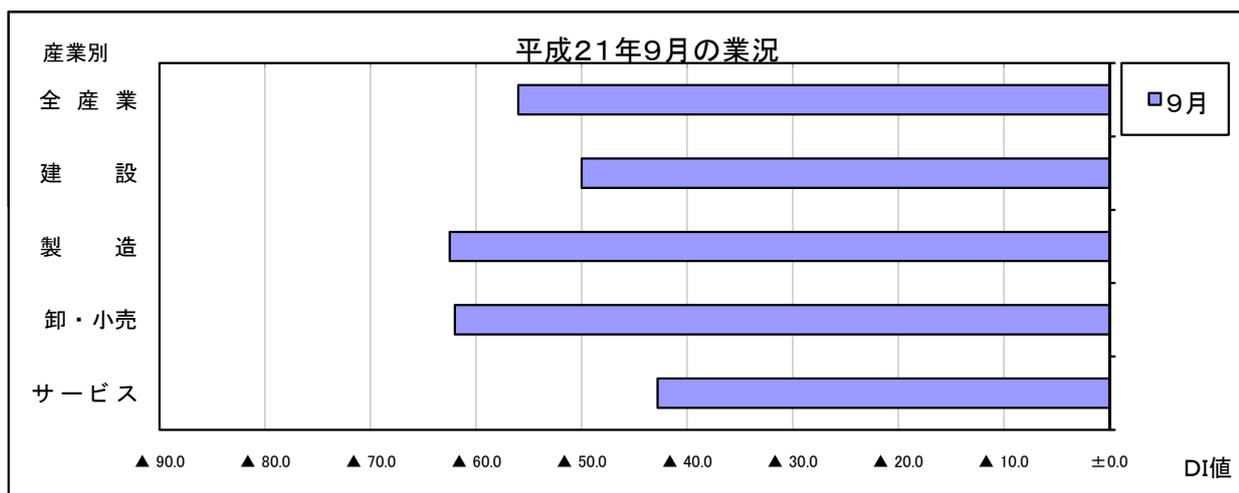
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲50.0(同▲57.1)である。変らない業種は、卸小売業▲62.0(同▲62.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲62.5(同▲50.0)、サービス業▲42.8(同▲40.0)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲41.3(前月水準▲34.2)となり、マイナス幅が▲7.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲43.7(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲42.8(同▲26.6)、製造業▲37.5(同▲22.2)、卸小売業▲41.3(同▲37.9)である。

平成21年9月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成21年	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し	
	4月						10月~12月	9月~11月
全産業	▲ 64.3	▲ 59.7	▲ 53.9	▲ 61.6	▲ 53.9	▲ 56.0	▲ 41.3 (▲ 34.2)	
建設	▲ 68.7	▲ 66.6	▲ 53.3	▲ 64.7	▲ 57.1	▲ 50.0	▲ 43.7 (▲ 50.0)	
製造	▲ 66.6	▲ 58.8	▲ 47.0	▲ 62.5	▲ 50.0	▲ 62.5	▲ 37.5 (▲ 22.2)	
卸・小売	▲ 59.2	▲ 58.6	▲ 64.5	▲ 62.9	▲ 62.0	▲ 62.0	▲ 41.3 (▲ 37.9)	
サービス	▲ 66.6	▲ 56.2	▲ 38.4	▲ 53.8	▲ 40.0	▲ 42.8	▲ 42.8 (▲ 26.6)	



【平成21年9月の売上についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲61.3(前月水準▲64.4)となり、マイナス幅が△3.1ポイント縮小した。

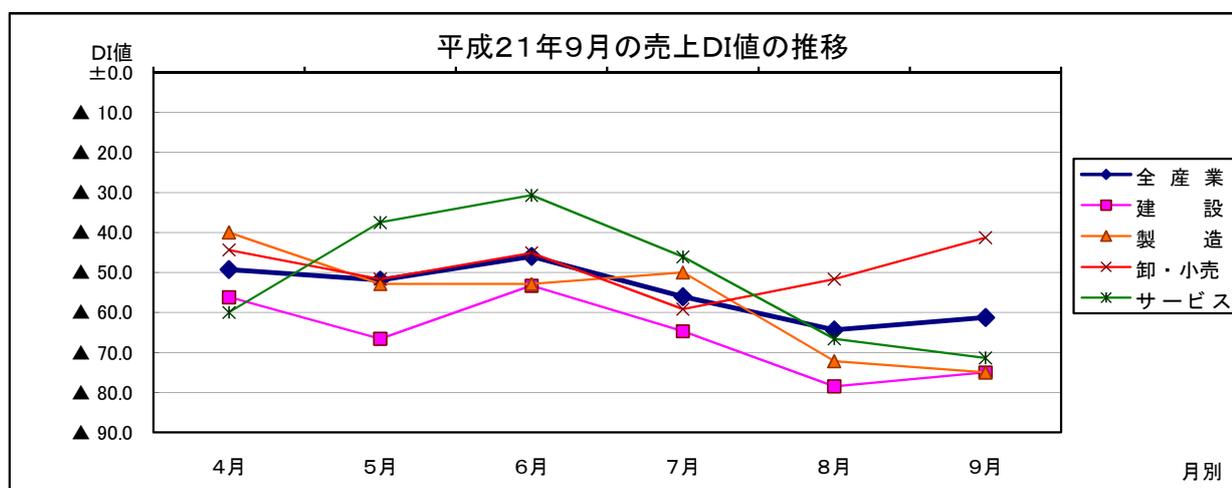
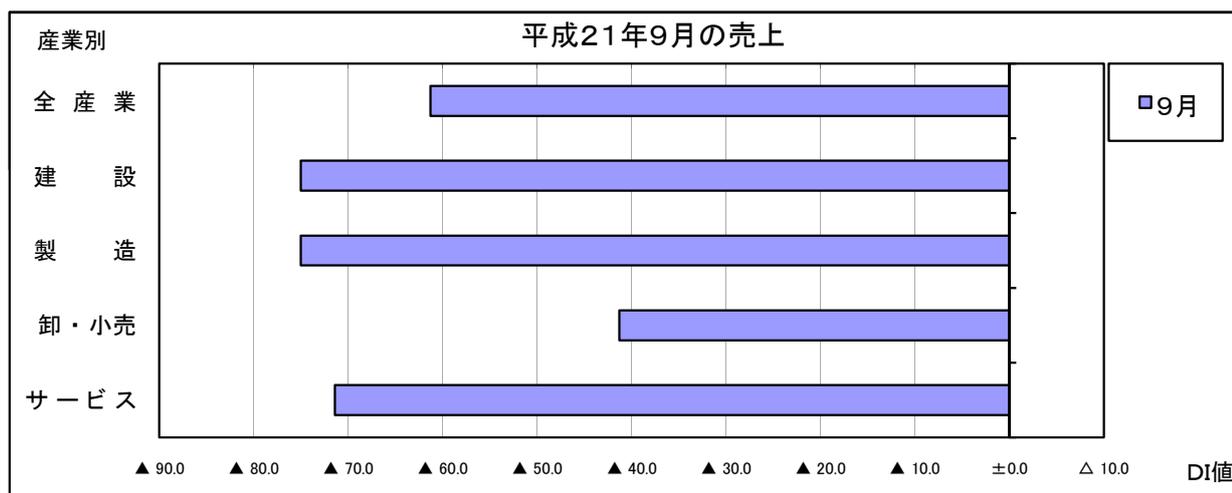
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲41.3(同▲51.7)、建設業▲75.0(同▲78.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲71.4(同▲66.6)、製造業▲75.0(同▲72.2)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.3(前月水準▲23.6)となり、マイナス幅が▲1.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲37.5(同▲57.1)、製造業▲18.7(同▲22.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲17.2(同▲6.8)、サービス業▲35.7(同▲26.6)である。

平成21年9月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月～12月(9月～11月)
全産業	▲49.3	▲51.9	▲46.0	▲56.1	▲64.4	▲61.3	▲25.3(▲23.6)
建設	▲56.2	▲66.6	▲53.3	▲64.7	▲78.5	▲75.0	▲37.5(▲57.1)
製造	▲40.0	▲52.9	▲52.9	▲50.0	▲72.2	▲75.0	▲18.7(▲22.2)
卸・小売	▲44.4	▲51.7	▲45.1	▲59.2	▲51.7	▲41.3	▲17.2(▲6.8)
サービス	▲60.0	▲37.5	▲30.7	▲46.1	▲66.6	▲71.4	▲35.7(▲26.6)



【平成21年9月の採算についての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲53.3(前月水準▲55.2)となり、プラスマイナス幅が▲1.9ポイント縮小した。

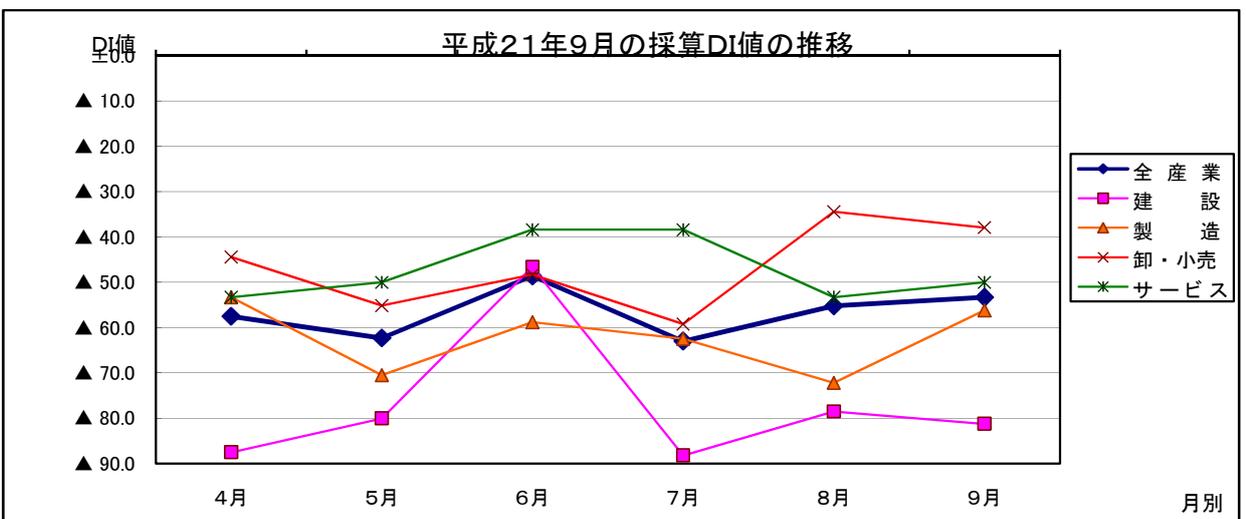
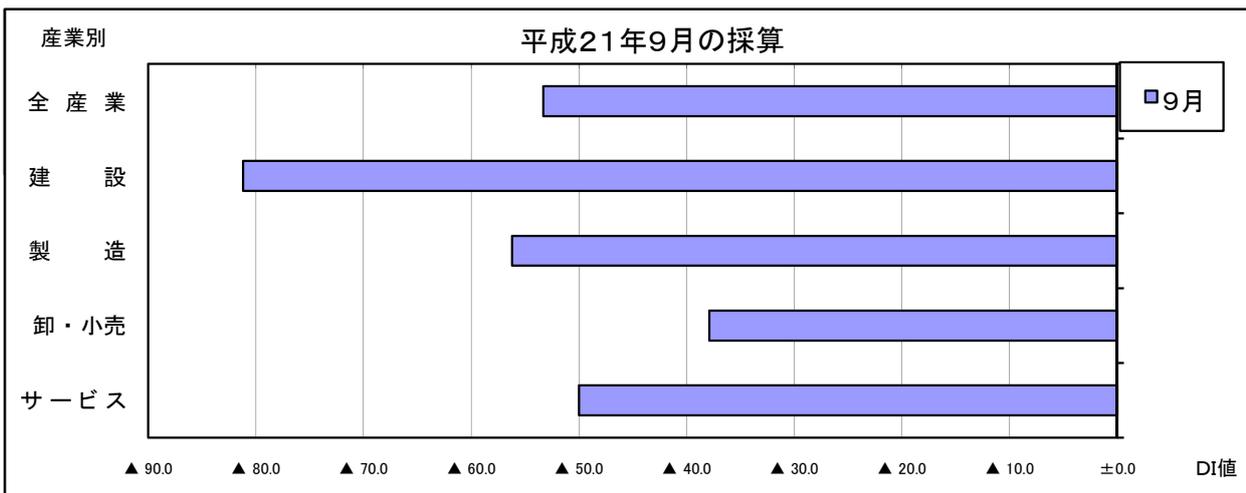
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲56.2(同▲72.2)、サービス業▲50.0(同▲53.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲37.9(同▲34.4)、建設業▲81.2(同▲78.5)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲36.0(前月水準▲32.8)となり、マイナス幅が▲3.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲37.5(同▲57.1)、サービス業▲35.7(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲37.9(同▲27.5)、製造業▲31.2(同▲22.2)である。

平成21年9月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲57.5	▲62.3	▲48.6	▲63.0	▲55.2	▲53.3	▲36.0(▲32.8)
建設	▲87.5	▲80.0	▲46.6	▲88.2	▲78.5	▲81.2	▲37.5(▲57.1)
製造	▲53.3	▲70.5	▲58.8	▲62.5	▲72.2	▲56.2	▲31.2(▲22.2)
卸・小売	▲44.4	▲55.1	▲48.3	▲59.2	▲34.4	▲37.9	▲37.9(▲27.5)
サービス	▲53.3	▲50.0	▲38.4	▲38.4	▲53.3	▲50.0	▲35.7(▲33.3)



【平成21年9月の仕入単価についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.3(前月水準▲6.5)となり、マイナス幅が▲6.8ポイント拡大した。

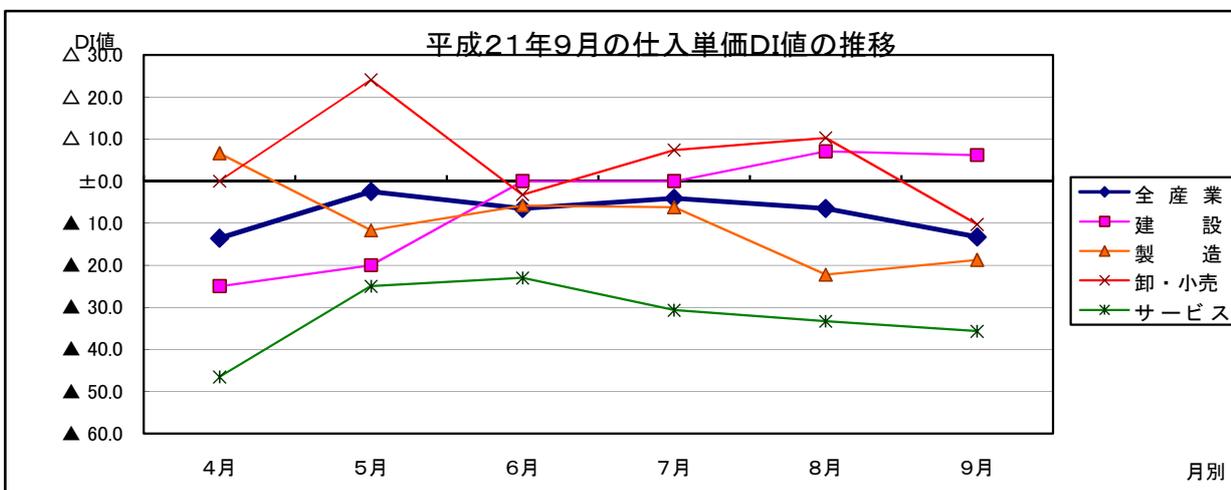
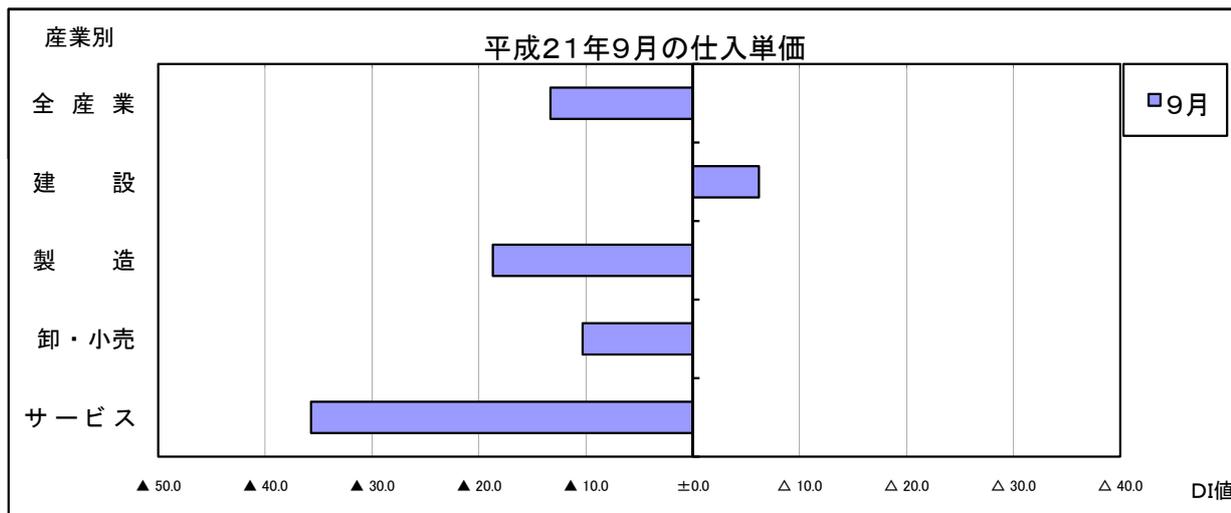
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲18.7(同▲22.2)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△6.2(同△7.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、卸小売業▲10.3(同△10.3)であり、▲20.6ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲35.7(同▲33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲18.6(前月水準▲15.7)となり、マイナス幅が▲2.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同▲7.1)である。変らない見通しの業種は、卸小売業▲17.2(同▲17.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲25.0(同▲11.1)、サービス業▲35.7(同▲26.6)である。

平成21年9月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月 (9月~11月)
全産業	▲ 13.6	▲ 2.5	▲ 6.5	▲ 4.1	▲ 6.5	▲ 13.3	▲ 18.6 (▲ 15.7)
建設	▲ 25.0	▲ 20.0	±0.0	±0.0	△ 7.1	△ 6.2	±0.0 (▲ 7.1)
製造	△ 6.6	▲ 11.7	▲ 5.8	▲ 6.2	▲ 22.2	▲ 18.7	▲ 25.0 (▲ 11.1)
卸・小売	±0.0	△ 24.1	▲ 3.2	△ 7.4	△ 10.3	▲ 10.3	▲ 17.2 (▲ 17.2)
サービス	▲ 46.6	▲ 25.0	▲ 23.0	▲ 30.7	▲ 33.3	▲ 35.7	▲ 35.7 (▲ 26.6)



【平成21年9月の従業員についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.0(前月水準▲10.5)となり、マイナス幅が▲1.5ポイント拡大した。

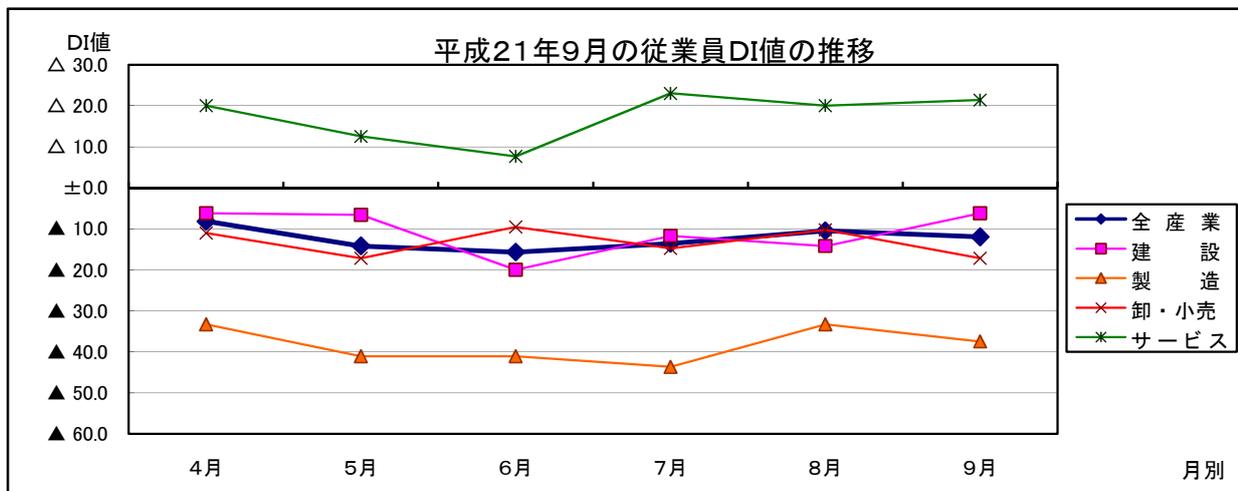
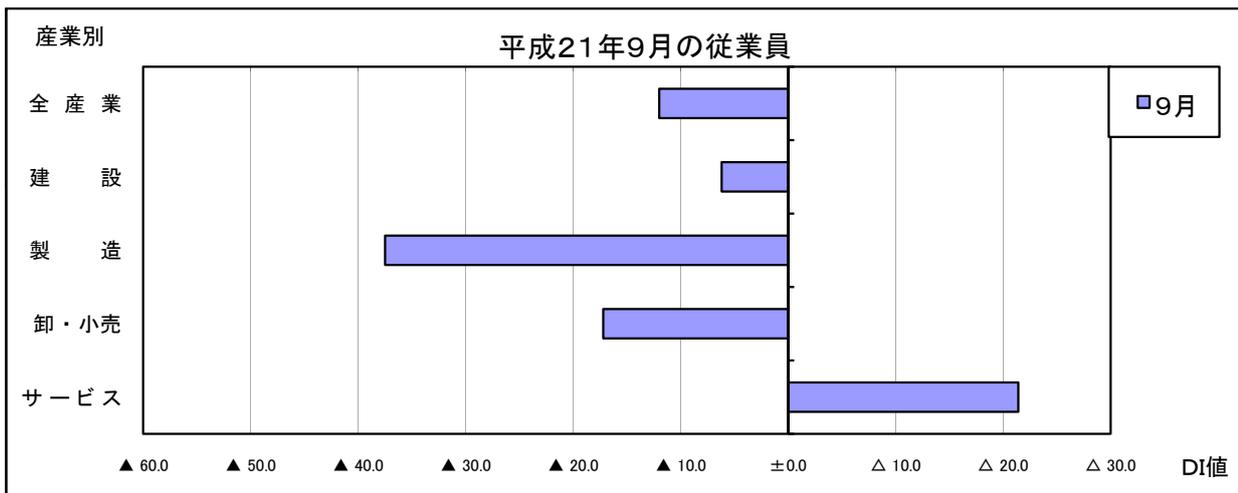
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△21.4(同△20.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲6.2(同▲14.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲17.2(同▲10.3)、製造業▲37.5(同▲33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.6(前月水準▲10.5)となり、マイナス幅が▲0.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△21.4(同△20.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲13.7(同▲17.2)、製造業▲25.0(同▲27.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲18.7(同▲7.1)である。

平成21年9月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成21年						先行き見通し	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月~12月 (9月~11月)	
全産業	▲ 8.2	▲ 14.2	▲ 15.7	▲ 13.6	▲ 10.5	▲ 12.0	▲ 10.6 (▲ 10.5)	
建設	▲ 6.2	▲ 6.6	▲ 20.0	▲ 11.7	▲ 14.2	▲ 6.2	▲ 18.7 (▲ 7.1)	
製造	▲ 33.3	▲ 41.1	▲ 41.1	▲ 43.7	▲ 33.3	▲ 37.5	▲ 25.0 (▲ 27.7)	
卸・小売	▲ 11.1	▲ 17.2	▲ 9.6	▲ 14.8	▲ 10.3	▲ 17.2	▲ 13.7 (▲ 17.2)	
サービス	△ 20.0	△ 12.5	△ 7.6	△ 23.0	△ 20.0	△ 21.4	△ 21.4 (△ 20.0)	



【平成21年9月の資金繰りについての状況】

○9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲37.3(前月水準▲34.2)となり、マイナス幅が▲3.1ポイント拡大した。

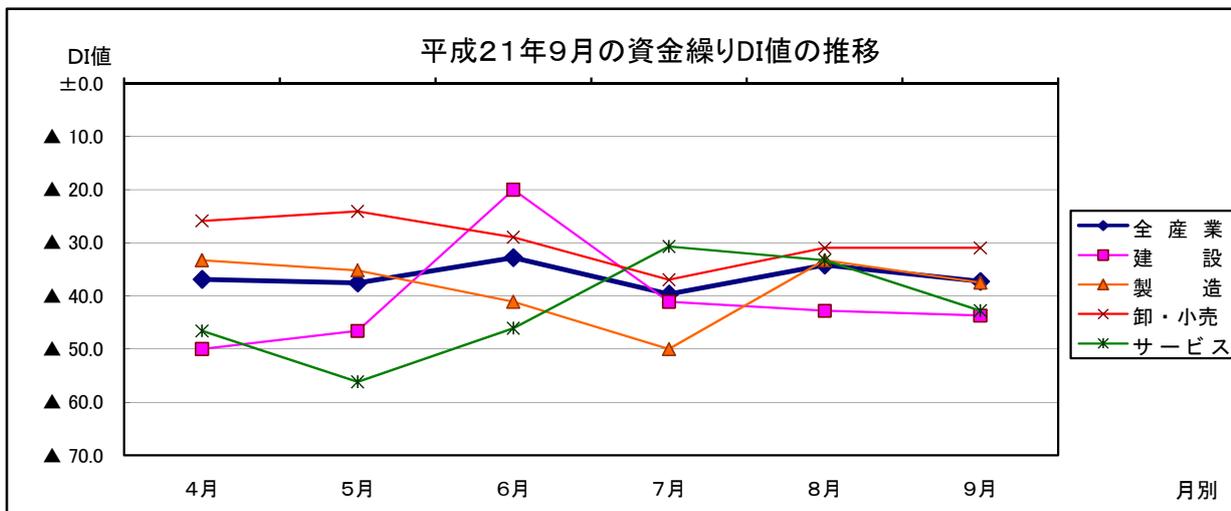
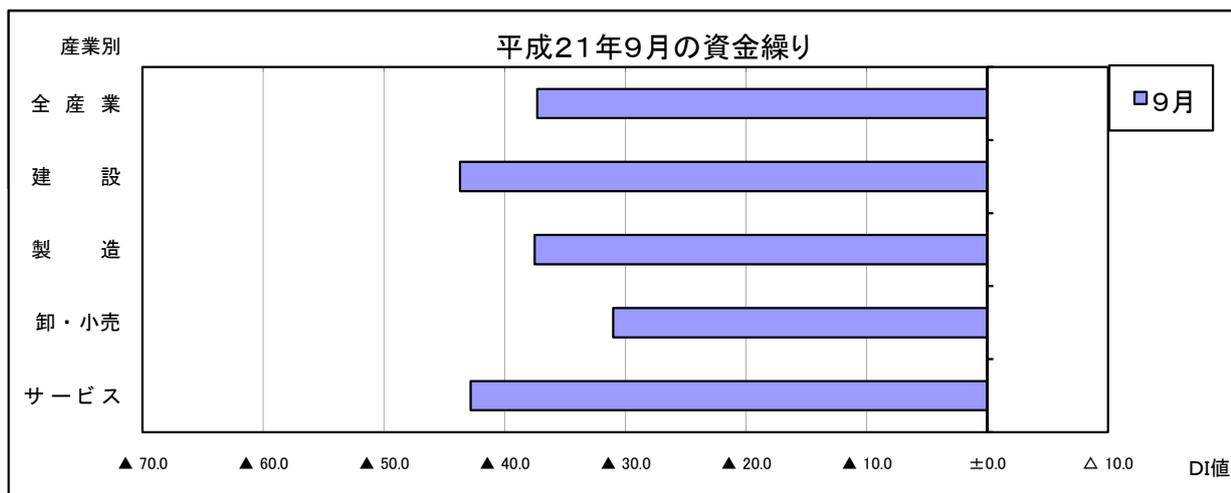
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、卸小売業▲31.0(同▲31.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲42.8(同▲33.3)、製造業▲37.5(同▲33.3)、建設業▲43.7(同▲42.8)である。

○向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲30.6(前月水準▲26.3)となり、マイナス幅が▲4.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない見通しの業種は、卸小売業▲24.1(同▲24.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲50.0(同▲33.3)、製造業▲25.0(同▲22.2)、建設業▲31.2(同▲28.5)である。

平成21年9月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成21年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月~12月(9月~11月)
全産業	▲36.9	▲37.6	▲32.8	▲39.7	▲34.2	▲37.3	▲30.6(▲26.3)
建設	▲50.0	▲46.6	▲20.0	▲41.1	▲42.8	▲43.7	▲31.2(▲28.5)
製造	▲33.3	▲35.2	▲41.1	▲50.0	▲33.3	▲37.5	▲25.0(▲22.2)
卸・小売	▲25.9	▲24.1	▲29.0	▲37.0	▲31.0	▲31.0	▲24.1(▲24.1)
サービス	▲46.6	▲56.2	▲46.1	▲30.7	▲33.3	▲42.8	▲50.0(▲33.3)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 61.3	▲ 25.3	▲ 53.3	▲ 36.0	▲ 13.3	▲ 18.6	▲ 12.0	▲ 10.6
建設	▲ 75.0	▲ 37.5	▲ 81.2	▲ 37.5	△ 6.2	±0.0	▲ 6.2	▲ 18.7
製造	▲ 75.0	▲ 18.7	▲ 56.2	▲ 31.2	▲ 18.7	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 25.0
卸・小売	▲ 41.3	▲ 17.2	▲ 37.9	▲ 37.9	▲ 10.3	▲ 17.2	▲ 17.2	▲ 13.7
サービス	▲ 71.4	▲ 35.7	▲ 50.0	▲ 35.7	▲ 35.7	▲ 35.7	△ 21.4	△ 21.4

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 56.0	▲ 41.3	▲ 37.3	▲ 30.6
建設	▲ 50.0	▲ 43.7	▲ 43.7	▲ 31.2
製造	▲ 62.5	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 25.0
卸・小売	▲ 62.0	▲ 41.3	▲ 31.0	▲ 24.1
サービス	▲ 42.8	▲ 42.8	▲ 42.8	▲ 50.0

【平成21年9月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	決算処理が終了した。内容は年々悪化している。現状打開策が必須。	決算 業況悪化 打開策必須	板金・金物工事業
	例年だと、10～12月は年間で売上が多い月だが、今年は例年のように行かないと予測している。イベント等の回数をふやして売上を確保したいところだが、客数は多くても、売上高、利益が伴わないのが現状です。	売上確保 売上不振	管工事業(さく井を除く)
	工事価格を抑えるためか、積算額に差が多い。品質保持のためには、一定水準の予算が必要と思う。すべての業種で価格が下落して、回復は遠いのではないかと。	工事価格抑制 品質保持 価格下落	電気工事業
工業	得意先である製紙各社が、減産継続または強化を計画しており、大変厳しい状況である。	減産強化 厳しい業況	織物業
	昇降機基準法が実施され、当社是对応に時間がかかり、まだ準備段階(大手メーカーのみ対応済み)来年3月ごろの予定であり、当分の間新品の販売ができない。	昇降機基準法	一般産業用機械設備製造業
	当社としてはまだまだ景気低迷の影響は続いている。関係業者からは若干景気が戻りつつあると言うような声も聞こえてきた。ギリギリの状態から幸いなことに最悪な状態を脱出した感もある。	景気低迷 最悪管脱出	その他の機械・同部分品製造業
卸小売	ららぽーとの開店の影響が懸念される。	大型店の影響	百貨店
	他社が生鮮部門を縮小したため、当社としては食品部門が多少ですが上昇していますが、結局は同じパイの奪い合いとなっている状況。	食品部門上昇 パイの奪い合い	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	今月は中旬以降青果物全般に単価が下落傾向にあります。野菜は入荷減単価安、果実でも一部前年並みもあるが、入荷減単価安となっています。まだまだ消費減退が続き、価格安でも購買意欲が出ていません。また、新型インフルエンザ拡大による、物流の変化も出ている感があります。食の安全安心には常に気を配り、前向き商売を心掛けたい。	青果物単価下落 購買意欲低迷 新型インフルエンザ	食料・飲料卸売業
	客数は減っていないが、客単価の減少イコール売上の減少が続いている。	客単価減少 売上減少	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	近隣の大型スーパーに足を延ばす客が多く見られ、その周辺の小売店舗は厳しい状況が続くと思います。また、インフルエンザの影響か、来店客数が減少しています。	大型店の影響 厳しい業況 新型インフルエンザ 客数減少	その他の飲食料品小売業
	成果が如実に表れ、社長貸付なく夏を乗り切ることができた。これは10年ぶりの白星である。但し需要期に向かい、単価上昇もはっきりしているので、やはり前途多難に変わりはない。	需要期 単価上昇	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	秋冬物に商品が変わったが、売れていない。消費者の購買意欲は低く、年ごとに早まるバーゲンが収益をさらに悪くしている。	秋物商戦 購買意欲低迷 収益悪化	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
サービス	テナントのイベントセールが前倒しになったことや、他のイベントも後ろ倒しに調整したため、月初より売上高は低調な推移となった。特に平日の落ち込みは大きく苦戦。今月中旬からもイベントを開催し、お買い上げプレゼント企画やパフォーマンスで集客を図り、売上に繋げて行きたい。	イベントセール 売上低調 平日苦戦 イベント	各種商品小売業
	宿泊は売上減。稼働率は変わらず。宴会は売上増。展示会利用が増えたため。9月より、宿泊で、近隣新設SCへの出店企業から長期宿泊を受注。特需となっている。	宿泊減少 宴会増加	ホテル
	経費削減(人件費)のため、派遣社員をパートアルバイトに切り替えた。	経費節減 パートアルバイト	公衆浴場業

◎売上減少

- ・ 客数は多くても、売上高、利益が伴わないのが現状です 管工事業
- ・ 客数は減っていないが、客単価の減少イコール売上の減少が続いている。 その他の各種商品小売業
- ・ テナントのイベントセールが前倒しになったことや、他のイベントも後ろ倒しに 各種商品小売業
調整したため、月初より売上高は低調な推移となった。特に平日の落ち込み
は大きく苦戦。
- ・ 宿泊は売上減。稼働率は変わらず。 ホテル

◎厳しい業況

- ・ 決算処理が終了した。内容は年々悪化している。現状打開策が必須 板金・金物工事業
- ・ 得意先である製紙各社が、減産継続または強化を計画しており、大変厳し 織物業
い状況である。
- ・ 近隣の大型スーパーに足を延ばす客が多く見られ、その周辺の小売店舗は その他の飲食料品小売業
厳しい状況が続くと思います。

◎購買意欲低迷

- ・ 今月は中旬以降青果物全般に単価が下落傾向にあります。野菜は入荷減 食料・飲料卸売業
単価安、果実でも一部前年並みもあるが、入荷減単価安となっています。ま
だまだ消費減退が続く、価格安でも購買意欲が出ていません。
- ・ 秋冬物に商品が変わったが、売れていない。消費者の購買意欲は低く、年 その他の各種商品小売業
ごとに早まるバーゲンが収益をさらに悪くしている。

平成21年9月のCCI LOBOとの比較

- 【業況DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲56.0に対し、「CCI-LOBO」が▲61.4で、柏の方がマイナス幅が5.4ポイント小さい。いずれの業種においても「柏の景気」の方が良く、特にサービス業はマイナス幅が10ポイント以上良い。
- 【売上DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲61.3に対し、「CCI-LOBO」が▲58.4で、柏の方がマイナス幅が2.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・サービス業で、建設業、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲53.3に対し、「CCI-LOBO」が▲57.1で、柏の方がマイナス幅が3.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業で、卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業で、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲13.3に対し、「CCI-LOBO」が▲10.3で、柏の方がマイナス幅が3.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.0に対し、「CCI-LOBO」が▲20.5で、柏の方がマイナス幅が8.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業。
- 【資金繰りDI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲37.3に対し、「CCI-LOBO」が▲40.1で、柏の方がマイナス幅が2.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業。

平成21年9月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50 > DI 25	まあまあ 25 > DI 0	不振 0 > DI 25	極めて不振 25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 56.0	 50.0	 62.5	 62.0	 42.8
CCI LOBO	 61.4	 57.5	 67.0	 64.0	 56.9

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 61.3	 75.0	 75.0	 41.3	 71.4
CCI LOBO	 58.4	 52.2	 66.1	 60.6	 53.4

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 53.3	 81.2	 56.2	 37.9	 50.0
CCI LOBO	 57.1	 58.1	 65.4	 57.3	 50.3

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 13.3	 6.2	 18.7	 10.3	 35.7
CCI LOBO	 10.3	 15.5	 8.4	 6.5	 17.3

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 12.0	 6.2	 37.5	 17.2	 21.4
CCI LOBO	 20.5	 31.7	 30.6	 13.3	 8.8

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 37.3	 43.7	 37.5	 31.0	 42.8
CCI LOBO	 40.1	 47.5	 48.3	 35.4	 34.2

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(9月の調査結果のポイント)

調査期間：平成21年9月14日～18日

調査対象：柏市内107事業所及び組合にヒアリング、回答数75

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲64.3	▲68.7	▲66.6	▲59.2	▲66.6
5月	▲59.7	▲66.6	▲58.8	▲58.6	▲56.2
6月	▲53.9	▲53.3	▲47.0	▲64.5	▲38.4
7月	▲61.6	▲64.7	▲62.5	▲62.9	▲53.8
8月	▲53.9	▲57.1	▲50.0	▲62.0	▲40.0
9月	▲56.0	▲50.0	▲62.5	▲62.0	▲42.8
見通し	▲41.3	▲43.7	▲37.5	▲41.3	▲42.8

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

柏市の業況

業況DIはマイナス幅がわずかに拡大、業種問わず厳しい業況

9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース以下同じ)は56.0(前月水準53.9)となり、マイナス幅が2.1ポイント拡大した。業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業50.0(同57.1)である。変わらない業種は、卸小売業62.0(同62.9)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業62.5(同58.8)、サービス業42.8(同40.0)、卸小売業41.3(同41.3)である。

【建設業】では、「工事価格を抑えるためか、積算額に差が多い。品質保持のためには、一定水準の予算が必要と思つ。すべての業種で価格が下落して、回復は遠いのではないか(電気工事業)」、「例年だと、10～12月は年間で売上が多い月だが、今年は例年のように行かないと予測している(管工事業)」などのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「当社としてはまだまだ景気低迷の影響は続いている。関係業者からは若干景気が戻りつつあると言つような声も聞こえてきた。ギリギリの状態から幸いなことに最悪な状態を脱出した感もある(その他の機械・同部品製造業)」、「昇降機基準法が実施され、当社は対応に時間がかかり、また準備段階(大手メーカーのみ対応済み)来年3月ごろの予定であり、当分の間新品の販売ができない(一般産業用機械設備製造業)などの声が上がってきた。

【卸小売業】では、「他社が生鮮部門を縮小したため、当社としては食品部門が多少ですが上昇していますが、結局は同じ状況(その他の各種商品小売業)」、「社長貸付なく夏を乗り切ることができた。これは10年ぶりの白星である。但し需要期

に向かい、単価上昇もはつきりしている。やはり前途多難にかわりはない(燃料小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】では、「9月より、宿泊で、近隣施設SCへの出店企業から長期宿泊を受注特需となっている(ホテル)」、「経費削減(人件費)のため、派遣社員をパートアルバイトに切り替えた(公衆浴場業)」のコメントがあった。

9月の景気キーワード

売上減少

各業種から、「客数は多くても、売上高、利益が伴わないのが現状です(管工事業)」、「客数は減っていないが、客単価の減少イコール売上の減少が続いている(その他の各種商品小売業)」、「テナントのイベントセールが前倒しになったことや、他のイベントも後倒しに調整したため、月初より売上高は低調な推移となった。特に平日の落ち込みは大きく苦戦(各種商品小売業)」、「宿泊は売上減。稼働率は変わらず(ホテル)」など、特に客数との関係も含めた見方をした声が多く上がっていた。

厳しい業況

各業種から、「決算処理が終了した。内容は年々悪化してい

る。現状打開策が必須(板金・金物工事業)」、「得意先である製紙各社が、減産継続または強化を計画しており、大変厳しい状況である(織物業)」、「近隣の大型スーパーに足を延ばす客が多く見られ、その周辺の小売店舗は厳しい状況が続くと思います(その他の飲食料品小売業)」などのコメントがあった。

購買意欲低迷

各業種から、「今月は中旬以降青果物全般に単価が下落傾向にあります。野菜は入荷減単価安、果実でも一部前年並みもあるが、入荷減単価安となっています。まだまだ消費減退が続く、価格安でも購買意欲が出ていません(食料・飲料卸売業)」、「秋冬物に商品が変わったが、売れていない。消費者の購買意欲は低く、年ごとに早まるバーゲンが収益をさらに悪くしている(その他の各種商品小売業)」などのコメントがあげられた。

CCI LOBOとの比較

全産業合計では、「柏の景気」が53.9に対し、「CCI LOBO」が59.6で、柏の方がマイナス幅が5.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業で、いずれも

マイナス幅が10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業

CCIO - L O B O

商工会議所早期景気観測(9月速報)

調査期間：平成21年9月14日～18日

調査対象：全国の407商工会議所が2589業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況 業況DIは、7カ月振りに マイナス幅が拡大

9月の業況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比)は、前月(61.4)より1.8ポイントとなり、7カ月振りにマイナス幅が拡大した。産業別にみると、業況DIのマイナス幅は卸売業を除く他の4業種で拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、各地からは、経済対策の効果などから売上は持ち直しの動きがみられるが、競争激化による低価格受注や販売単価の低下から企業収益は厳しい状態が続いている。先行きについては、雇用・所得情勢の悪化や設備投資の減退など需要低迷、売上の長期停滞などにより、継続的な資金繰りが限界に達しつつあるという声が多い。また、建設業を中心に政権交代による公共工事など補正予算の凍結や、燃料や一部の原材料(銅や砂糖など)の価格上昇、田舎を懸念する声が出ている。また、秋以降の新型インフルエンザの感染拡大による景気の下振れを懸念する声も強い。

【建設業】「公共工事の前倒し効果で、低価格であるが受注増、従業員も不足する会社が出てきている」(建築工事業)、「雇用維持のための努力について労働時間の調整の他に、給与等の減額を行っている」(一般工事業)

【製造業】「価格競争が厳しく、利益が減っている」(暖房装置・配管工事用附属品製造業)、「取引各社の新型モーターエンジンの金割受注が増加。売上高も上昇しているが、前年同期比では30%減で業況回復には程遠い」(ゴムプラスチック製履物製造業)、「自動車関連に生産回復がみられるが、設備投資にまでは至っていない」(建設・鉱山機械製造業)

【卸売業】「売掛金の回収サイクルが徐々に長期化している」(農畜産水産物卸売業)、「多くの業種で売上に下げ止まり感が出てきている」(農畜産水産物卸売業)、「雇用維持のため雇用調整助成金制度の利用を検討」(建築材料卸売業)

【小売業】「8月の駿河湾の地震以降、防災用品の売上が増加。客数も前年を上回る」(百貨店)、「エコポイントで薄型テレビが出てきているが単価下落で売上額は伸びない」(その他の小売業)、「天候不順の影響で夏物の処分が進まず、秋物は価格の下落が著しい」(商店街)

【建設業】「公共工事の前倒し効果が出ているが、政権交代による補正予算凍結を懸念」(土

【サービス業】「新型インフルエンザの感染拡大による売上減少を懸念」(食堂・レストラン)、「シルバーウィークの影響で予約が増えた」(旅館)、「新車の販売台数は減ったが、今乗っている車を修理して長く使用する傾向があり、修理の仕事が増えている」(自動車整備業)

九月のキーワード

雇用情勢のさらなる悪化

依然低調な受注、売上など業況悪化の影響から雇用の過剰感に関する声が寄せられている。週4日休業体制を取り生産調整している(瀬戸・陶磁器・関連商品製造業)、「労働時間の調整と給与・賞与などの減額を行っている」(千葉・一般産業用機械製造業)、「雇用調整助成金の利用を検討する企業が増加」(静岡・自動車・附属製品製造業)、「人手不足だが、採用ができない状況」(松戸・百貨店)、「退職者が出た際、人員補充を行わない」(草津・百貨店)、「専従者の給与が支払うことができない状況」(酒田・その他の小売業)

【サービス業】「新型インフルエンザの感染拡大による売上減少を懸念」(食堂・レストラン)、「シルバーウィークの影響で予約が増えた」(旅館)、「新車の販売台数は減ったが、今乗っている車を修理して長く使用する傾向があり、修理の仕事が増えている」(自動車整備業)

また、9月の中間決算を前に、金利引き上げや担保要求等、金融機関の貸し出し態度が厳しくなっていると指摘する声も寄せられている。「工場等を処分した場合、事業資金の借入残と相殺できるならば工場を閉めたい」という話もある(さいたま・金属加工機械製造業)、「融資を受けても持ちこたえられるか心配」(塩尻・商店街)、「夏物売上で低調から、支払いなど資金繰りが厳しい状況」(八王子・商店街)、「一部金融機関の融資姿勢が以前にも増して厳しくなってきた」(横浜・一般工事業)、「業界の業況悪化などから、金融機関の資金借入れ等査定に厳しさが増している」(函館・水産食料品製造業)

「受注競争が激化」(静岡・一般工事業)、「工事単価の減額を余儀なくされ、利益が出るか出ないかの状態」(松戸・左官工事業)、「消費者の購買動向は低価格指向が続いている」(函館・水産物食料品製造業)、「採算割れの価格で受注する競合他社があり、全体の受注単価が下がっている」(松戸・建設建築用金属製品製造業)、「低価格

「受注競争が激化」(静岡・一般工事業)、「工事単価の減額を余儀なくされ、利益が出るか出ないかの状態」(松戸・左官工事業)、「消費者の購買動向は低価格指向が続いている」(函館・水産物食料品製造業)、「採算割れの価格で受注する競合他社があり、全体の受注単価が下がっている」(松戸・建設建築用金属製品製造業)、「低価格

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
4月	▲70.4	▲70.9	▲74.4	▲66.7	▲70.9	▲66.9
5月	▲65.7	▲71.6	▲69.1	▲66.2	▲66.2	▲57.7
6月	▲64.2	▲66.7	▲70.6	▲61.8	▲63.4	▲57.3
7月	▲63.6	▲61.2	▲65.7	▲65.5	▲65.1	▲60.3
8月	▲59.6	▲56.3	▲62.9	▲61.1	▲60.7	▲56.3
9月	▲61.4	▲57.5	▲67.0	▲56.8	▲64.0	▲56.9
見通し	▲46.4	▲49.8	▲40.7	▲41.9	▲50.1	▲47.8

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

指向が進んでいる」(長野・農畜産水産物卸売業)、「品質がよく安くなければ売れない」(藤・百貨店)、「仕事が安い店舗に集中している」(高砂・洗濯業)